

住もっさ上越

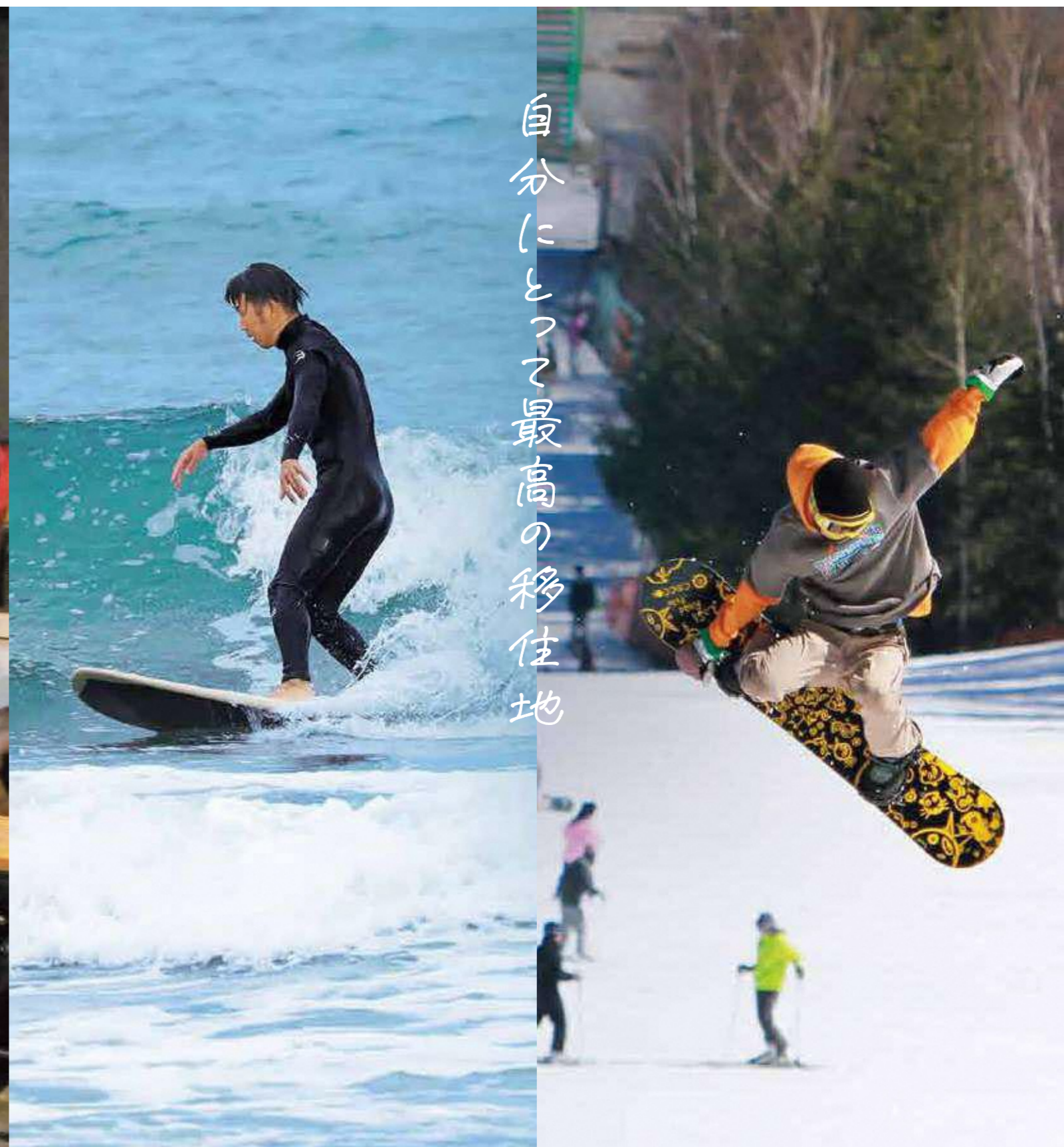
新潟県上越市 移住者インタビュー / 暮らしのごあんない



ドキドキはステキなこと

住もっさ上越

新潟県上越市 移住者インタビュー / 暮らしのごあんない



自分にとって最高の移住地



Case 01

知らない土地に移住する ドキドキはステキなこと。

上越市高田地区は、江戸時代のはじめに高田城が築城されて以来、400年以上の歴史がある城下町です。その高田の中心にある本町商店街に、カフェとステーキダイニングのお店を構えているのが大澤慎太郎さん(神奈川県出身)・理恵さん(山梨県出身)のご夫婦です。

お二人が結婚する前、都会育ちの慎太郎さんのお父さんが、スローライフに憧れて上越市に移住。その後を追いかけて、慎太郎さんが上越に移住し、結婚を機に理恵さんが一緒に暮らすことになりました。結婚前に何度か上越を訪れていた理恵さんは「結婚したらここで暮らすんだらうなと、ウスウス感じていました(笑)」

山梨育ちの理恵さんのもとともいえる土地に行ってみたい気持ちを持っていて、海に憧れていたこともあり、海のある上越への移住に抵抗はなかったそうです。実際に高田の街を歩いてみて感じた街の魅力は、高田城に関連のある史跡が多く、歴史を感じられるところ、理恵さんが大好きな和菓子を扱う老舗のお店が多いところでした。「こんなにたくさん歴史ある場所や和菓子屋さんが揃っている場所って東京や山梨には無かったな」と今まで暮らしてきた街にはない魅力を感じたそうです。そんなお二人がお店を開ききっかけとなったのは、「ここに」気軽にいられて息つけるお店があるといいな」という思いから。その時に夫の慎太郎さんが言った「この街でお店を始めたいな」という言葉に理恵さんも共感。

こんなにたくさん歴史ある場所や和菓子屋さんが揃っている場所ってなかなか無いんじゃないかな。

その思いを強くした理恵さんが、慎太郎さんに開店の意思を伝えてからカフェのオープンまで約半年。物件を見つけたのは開店3か月前。内装の工事などはできる限り自分たちの手で進め、開店資金には知り合いから紹介された市の助成制度も活用しました。

カフェがオープンして5年。お客様は、商店街や近所の人が多く、近所で一人で切り盛りされている方がランチを食べに来てくれたり、ご年配の方が来て商店街の昔話をしてくれます。商店街にあるお店だからこそ横のつながりがあり、ポツンとお店があるよりも心強く感じています。

メニューを研究するために東京へ行くこともありますが、最近では、友人たちを上越の日本酒や米を紹介するようになり、「上越の営業マンのようです(笑)」。自分の知らないところに移住した当初は、不安と希望でドキドキはしますが、新しい暮らしや出会いがあるのとてもステキなことじゃないかな、と感じています。「お店をやってみたい、と思っている人は昔からの商店街がいいですね。地域のつながりがあり、商売もやりやすいと思います。特に高田の商店街はおススメなので、ぜひこの街でお店をやりましょう」。



- 01 最初にオープンした「ぶらんカフェ」。夫婦でお店に立つこともあります
- 02 本町商店街を歩くお二人。カフェを開ききっかけは、冬にまち歩きをしていた時の思いから
- 03 理恵さんは、大の和菓子好き。本町商店街には和菓子屋さんがたくさんあります
- 04 05 「ぶらんカフェ」の次にオープンした「ステーキダイニングプラン」は、落ち着いた雰囲気でも大人気でも過ごせるお店です。将来的には違う業種のお店の展開も考えているそうです
- 06 07 商店街の方々は皆さん優しくして商売をするにも心強いです
- 08 商店街には雰囲気のいいお店がたくさんあります。和菓子の他にも老舗のお味噌屋さんや米菓屋さんなども並び、伝統ある魅力的な商品が生まれた街です

ぶらんカフェ
ホームページ

ステーキダイニングプラン
ホームページ

この補助制度を活用!

上越市中心市街地における空き店舗等利用促進補助金

中心市街地の活性化を図るため、中心市街地の補助対象区域内の空き店舗や空き家等を活用した商業施設の出店や事務所の開設を行う個人・法人等に対して、改装費等の一部を補助する制度です。

補助対象経費	改装費(内壁・照明など)、設計費	
補助金の額等	店舗等	補助率 限度額 ^{※2}
	1階店舗等 ^{※1}	50% 100万円
	2階等店舗等	25% 50万円

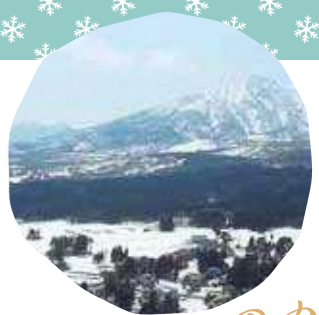
詳しくは
コチラ

^{※1} 空き店舗等のうち1階又は1階を含む複数の階に位置する店舗等
^{※2} 1,000円未満の端数がある時は、当該端数を切り捨てた額

お話をうかがった人
おおさわしんたろう
大澤慎太郎さん・理恵さんご夫妻

慎太郎さんが先に上越に移住。上越と東京の遠距離恋愛を経て、平成24年に結婚し、理恵さんも上越に。その後、市内の商店街で飲食店を開店しました。





Case 02

岡沢にはやりたいたいことができる余白を感じられた。

火打山、妙高山、大毛無山など、山々の直下にある上越市中郷区岡沢地区は豪雪地帯。近くに日本最高のパウダースノーと積雪量を誇る「ロッテアライリゾート」もあります。19歳からスノーボードを始め、冬になると週末ごとに雪のない静岡県浜松市から雪山に通っていた竹内雄介さん（静岡県出身は雪を求めて岡沢に移住してきました）。

「雪山通いに費やす時間と交通費を考えると雪国に住みたいなど10年位前から考えていました。プロを目指してシーズン雪山に籠もったときに自分はスノーボードの技を極めるよりも仲間たちと楽しむスタイルが好きなのがわかりました。雪国に住めば日常的にスノーボードを楽しめます。理想のライフスタイルが見えたので移住を決意しました」。

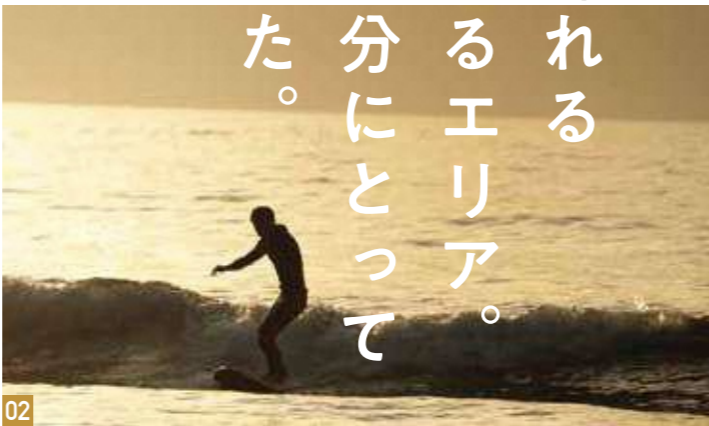
移住先の条件は、雪と山、景観が開けている土地、インフラの整備。中でも竹内さんが一番こだわったのは余白があること。自分が地域で活動できる可能性があるかを見極めるために平成30年10月、岡沢で開催されたイベントに参加。「夜の鍋パーティーに集落の人たちが集まってくれたんです。イベントを主催する『雪郷』代表の塚田卓弥さんも移住者で。皆さんから話を聞くと条件を全てクリアしていました」。さらに当時の町内会長さんに移住先を探していることを伝えると、翌日には空き家を紹介してもらえました。地域の人たちとの交流から心が決まり、4か月後の平成31年2月から岡沢暮らしがスタートしました。

中郷区は世界に誇れる横乗り系を楽しめるエリア。横乗りが好きな自分にとって最高の移住地でした。

冬は毎朝、家から車で7分のロッテアライリゾートに通い、朝一のきれいなパウダースノーを満喫。「サーフィンも始めてハマってしまいました（笑）。思い描いていた暮らしよりどんどん楽しくなっています。中郷区はスノーボード、サーフィン、スケートボードとシーズンごとに横乗り系を楽しむ環境が整っている、世界一のエリアだと思います」。

浜松市のIT会社の社員としてリモートで働きながら令和2年にはデザインを主体とした個人事業を起業。さらに集落に18時以降開いている飲食店がなく、「飲む場所がない」という声を受け、毎週金曜日の18時から3時間だけ居酒屋を営む竹内さん。「地域の人たちが集まれる場所を作りたいと思っていました。皆さんのおしゃべりが楽しいです」。雪郷プロジェクトのメンバーとしてデザインや動画制作などの活動もしています。

「ここは自然も人間関係もとても居心地が良いです。今後は小さな集落でもしっかりと生活が成り立つように、地域の活性化と自立に挑戦していきたいと考えています。最近、静岡の友達が近くに引っ越してきたり、集落の若い人たちが帰ってきているので何か新しいことができると思います」。



お話をうかがった人
竹内雄介さん・萌未さんご夫妻
雄介さんと静岡で近所さんだった萌未さんも移住計画に大賛成。平成30年9月に結婚し、翌年2月に二人で岡沢に移住。スノーボードや畑仕事も一緒に楽しんでいます。



住んでいる岡沢集落でとれたお米を販売している「農事組合法人おかざわ」のロゴデザインを担当

- 01 竹内さんが思い描いていたライフスタイルの完成形には必ずスノーボードがありました
- 02 移住してきてから本格的にハマってしまったサーフィン
- 03 スノーボードとサーフィンに続いて、「横乗り」つながりでスケートボードも趣味の1つに。上越市ではオールシーズン何かしらの横乗りを楽しめます
- 04 家の横の畑で取れた野菜。仲良しのご近所さんが畑作りのノウハウを教えてください
- 05 雪郷プロジェクトの事業の1つ、スノーモービルツアーに同行
- 06 スノーボードを楽しんだ後に山の中で仕事。パッケージと仕事が両立するワーケーション
- 07 自宅の縁側に設けられた竹内さんのワークスペース
- 08 近所の喫茶店「だんだんどうも」は毎週金曜日の夜だけ竹内さんがオーナーの居酒屋「だんだんどうも」になります

個人事業
LRF works
ホームページ





1 春日山城跡

戦国時代の名将・上杉謙信公の居城で知られる春日山城跡。日本 100 名城に数えられる



2 上越市立水族博物館「うみがたり」

100 羽を超えるマゼランペンギンや個性豊かな魚たちなどの魅力あふれる水族館



3 高田城址公園観桜会

日本三大夜桜の一つに数えられ、高田城址公園と周辺を含め約 4,000 本の桜が咲き誇る



4 高田城址公園観蓮会

外堀を埋めつくす蓮は規模と美しさから東洋一といわれ、夏の暑さを忘れさせてくれる



5 海水浴場

砂浜が広く、水がきれいな海。海水浴のほか、サーフィンや釣りなども楽しめる



6 高田の雁木通り

主に冬期の通路を確保するため、居住者が私有地を提供し合い造られた通りで総延長は日本一



7 上越清里星のふるさと館

県内最大の天体望遠鏡や四季折々の星座が楽しめるプラネタリウムを備えた天体観測施設



灯の回廊 (市内 6 地区で開催)

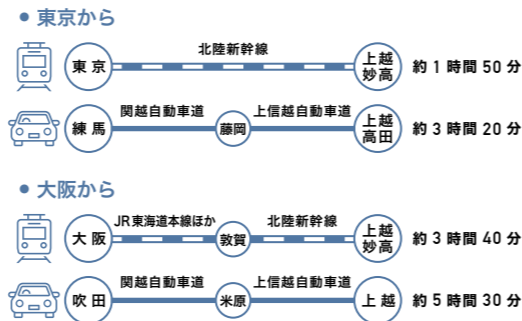
沿道や雪原に灯る約 10 万本のキャンドルのあかりが演出する温かな雪の世界



全国第 4 位の作付面積

豊富な雪どけ水と昼夜の寒暖差で実ったお米の味は格別

主要都市からのアクセス



上越市

- ✔️ どんどころ?
✔️ どんどこらし?

豊かな自然と歴史的な街並み、子育て環境や都市機能が充実した上越市。四季折々の自然の恵みを感じながら暮らすことができます。上越市の特色や魅力の一部をご紹介します。

新潟県上越市

人口: 182,911 人
世帯数: 77,734 世帯
面積: 937.89 km²
(令和 6 年 1 月 1 日時点 住民基本台帳)



8 キュービットバレイ

冬はスキーやスノーボード、夏はグランピングや自然体験などが楽しめるリゾート施設



9 信越トレイル

ブナ林や広葉樹林が多く、季節の変化を楽しめるトレッキングコース

東京と上越 暮らしの比較

Table comparing Tokyo and Joetsu City: 勤労者世帯の可処分所得と消費支出 (月額) ※2人以上世帯 (2019年全国家計構造調査). Tokyo: 490,924円 (所得), 316,541円 (消費). Joetsu: 419,827円 (所得), 252,706円 (消費).

家計を主に支える者の通勤時間 (片道)

東京 44.5 分 上越 17.7 分

家族団らんや自分の時間を増やせる!

住宅延べ面積 ※1住宅あたり

東京 65.9 m² 上越 133.6 m²

住宅地平均価格 (令和 3 年都道府県地価調査)

東京 380,900円/m² 上越 16,800円/m²

民間借家の月額家賃 (平成 30 年住宅・土地統計調査)

東京 2,331円/m² 上越 1,053円/m²

子育て支援

上越市では、子どもが自分らしくすこやかに成長することができる環境を整備し、子育て家庭が安心して子どもを産み、喜びと生きがいをもって子育てができるように、地域や民間企業・団体から協力をいただき、子育てを様々な形で支援しています。

市内保育園の待機児童数 0 人 (令和 5 年 4 月 1 日時点)



このほか、多様な子育て支援に取り組んでいます。詳しくは子育て支援サイトでご確認ください。

- ▶ 妊産婦医療費助成制度
▶ 子ども医療費助成制度
▶ 助産師の健康相談室
▶ 産婦健康診査の助成制度

- ▶ ファミリーヘルプ保育園やオーレンプラザでの一時預かり
▶ 病児・病後児保育室



こどもセンター、子育てひろば
親子の遊びの場、保護者同士の交流の場として無料で利用でき、子育て相談のほか、様々な子育てセミナーや子育て情報の提供を受けることができます。

移住支援

- ・東京圏からの移住支援
・住まいの支援
・仕事の支援

移住に関する相談窓口

上越市ふるさと暮らし支援センター (上越市多文化共生課)
TEL: 025-520-5674
E-mail: kyousei@city.joetsu.lg.jp
所在地: 〒943-8601 新潟県上越市木田 1 丁目 1 番 3 号

発行/令和 6 年 3 月

